



指扇中だより



西区の花 アジサイ

= 自信と誇りに満ちた指中生 =

〒331-0078 さいたま市西区西大宮 3-31-1 電話 048(624)6234 FAX048(624)2479

『指中生は地域の宝・指扇中学校は地域のシンボル』

校長 あおき ひろし
青木 洋

今までに経験したことのない豪雨で広範囲の台風19号が、関東地方に上陸するために、さいたま市は、学校施設を中心に避難所を開設しました。10月12日(土)午前10時の開設のために私は、指扇中学校に8時ごろに到着しました。私は、自宅から本校に来るまでに、いくつかの川を渡り、線路のアンダーパスをくぐってこないといけなかったので、ゆとりをもって指扇中に向かいました。幸い浸水したり、道路が通れなかったりしなかったので、予定より早く着くことができました。その後、すぐに教頭先生も指扇中学校にいらっしゃいました。施設管理者として、校長と教頭が来校し、避難所の開設のお手伝いのためカギを開けたり、電話を受けたり、職員室のパソコンを貸したりして避難所のお手伝いをします。

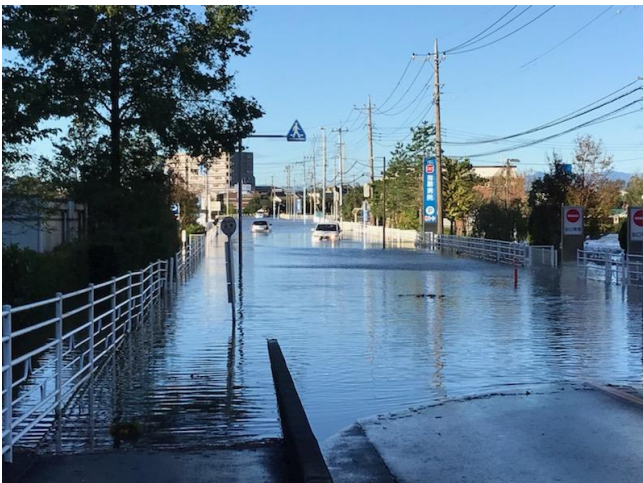
指扇中避難所担当のさいたま市の職員の方は、9時半ごろから随時来られまして、班長をはじめ4名の方がお見えになりました。避難所開設とともに、お年寄りの方、乳児や幼児を育てている若いご夫婦等が次々と来校されました。午後からは、風とともに雨も激しくなり、防災無線では、避難を促す放送がひっきりなしに鳴り響きました。また、消防車や救急車のサイレンもあちこちから聞こえてきます。夕方には、避難者は100人を超え、自動車は40台近くになりました。武道場だけではスペースが足りなくなり、2階の体育館、3階の卓球場も使わなくてはいけなくなりました。駐車場の空きもなく、縦列駐車をしなないと無理な状況になってきました。さらに、午後8時頃には、指扇地区の低いところには水が溢れて、道路が水に埋まってしまいました。本校は、指扇地区では高台の一等地にありますから、続々と地域の方が避難してきました。歩いて移動するのは危険な状態になり、自動車での避難は、やむを得ない状況になりました。午後11時過ぎには、雨が小降りになり、強風も収まり、避難者の流れも少なくなりました。この時、避難者は、すでに200人を超えていました。

その後、日付が変わり、13日の午前2時頃に長瀬のダムが放流するので、荒川の堤防が決壊するかもしれないという報道や防災無線が流れ、あつという間に自動車は100台近くになり、校庭に駐車せざる負えなくなりました。避難者は、350人近くになりました。

本当に大変な1泊2日の避難所運営でした。350人の避難者をわずか6人で面倒をみるという体制でいいのでしょうか？幸い大きなけがや病人等が出なかったので助かりました。指中生も家族の方と避難に来ていました。私は、指中生にも手伝ってほしいなあと思いました。あの時、指扇中の教職員が何人かおり、生徒に声掛けをしてくれていれば、きっとお年寄りのお世話をしたり、赤ちゃんや幼児の面倒をみたりしてくれたのではないかと思います。

指中生の皆さん、避難訓練の時等「自分の身は自分で守る」よう話していますが、さらにこのような災害の時は、お年寄りや小さい子を助けられる思いやりをもって、この指扇地区を支えてほしいと思います。今の指中生の様子から、「君たちならきっとできる」と私は心から思っています。

また、指扇中学校は、地域を守るシンボルとして、避難所の中心となる体育館に冷暖房を設置し、駐車場を整備し、外灯を付け避難者の足元を照らし安全に誘導でき、停電しても太陽光発電で何日も安心して過ごせるようにしていただけるよう施設管理者として、さいたま市教員委員会を通してさいたま市にお願いしていきます。保護者の皆さま、地域の方々もご理解とご協力をお願い致します。



指扇地区目指す児童生徒像 「～夢をもち 社会のために進んで学ぶ 指扇の子ども～」